

村上地域における「つきあかり」の多収穫栽培ごよみ

- 品種の特徴**
- 出穂期及び成熟期は「こしいぶき」に比べ4早い早生のうるち種
 - 耐倒伏性は強
 - 耐穂発芽性はやや難
 - 偏穂重型のため、茎数が確保しにくい

- 栽培のポイント**
- (1) 健苗育成 : ①育苗日数は20日程度(加温20日、無加温25日) ②播種は4月15日以降に実施 ③千粒重大きいので、播種量は乾籾165g/箱程度
 - (2) 過剰生育防止 : ①1株苗数4~6本植えとし、早期茎数確保 ②茎数がとれにくい品種のため栽植密度は下限70株/坪 ③基肥窒素量は7kg/10aをめやすとし、高地力ほ場は減肥 ④中干し・溝切りを徹底し、根の健全化と茎質向上
 - (3) 登熟向上 : ①1回目の穂肥時期が幼穂形成期であるため、幼穂確認と遅れない穂肥 ②出穂前後25日間は飽水管理とし、田面を乾かさず地力窒素の発現を促進 ③落水は出穂25日以降とし、登熟向上
 - (4) 病虫害防除 : ①いもち病の箱処理剤使用 ②いもち病とカメムシ類の同時防除 ③紋枯病の発生量に応じた適期防除
 - (5) 胴割れ発生防止 : ①刈り遅れしない適期収穫 ②刈取水分に応じて乾燥温度を調節
 - (6) 土づくり : ①稲わらの秋すき込み ②土づくり肥料や堆肥等有機物の施用

目標の収量構成と品質	
目標収量	660kg/10a
穂数	375本/m ²
1穂籾数	85粒
m ² 当り籾数	31,800粒
登熟歩合	88%
千粒重	23.7g
玄米タンパク質	6.5%

基本は「適正生育量の確保」と「登熟の良い稲づくり」

